

自然布の達人・田中陽子さん（暮らしのクラフトゆずりは「店主」）に聞く

第一章 夏織物の着こなし

東北の手仕事を今に伝える、青森・十和田湖畔の工芸店「暮らしのクラフトゆずりは」の店主・田中陽子さん。東北の染織品にこだわった、涼感を誘う装いを紹介します。

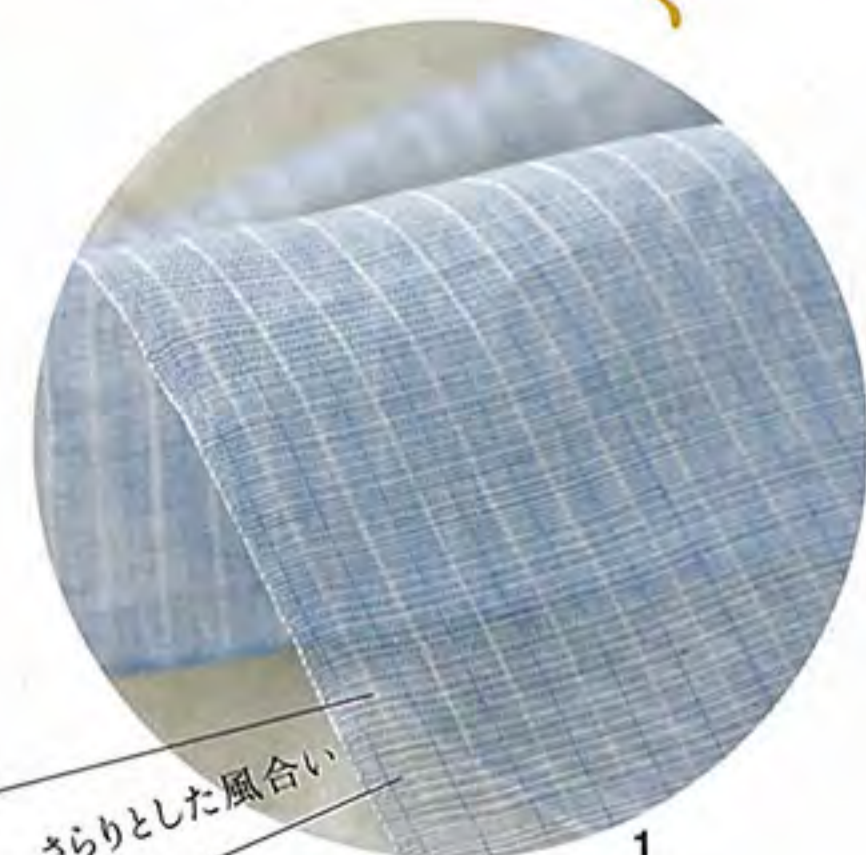
撮影：平群政宏 ヘア&メイク：着つけ：福岡奈良 撮影協力：うつつわ大福 文：上川恵

糸本来の色のからむし織の帯は、
使い込むうちに馴染んでいくのが楽しみ



2

1・3 細いからむし糸で織り上げたストールは、軽くて艶があり、透け感が爽やかさを演出。夏の冷房対策にも欠かせない一枚は、洋服にも 2 しゃり感がある涼しい白鷹産の墨黒の板締め緋絹上布は、とろりとした手触りで着やすいもの魅力。生成りのからむし織の帯には、シンプルモダンなデザインの帯留をポイントに。黒柿の木を仙台箆の職人が技を生かして仕上げた、温もりを感じさせるバッグで



さらりとした風合い

1



3



すっきりと現代的なデザイン

灰濃淡の市松に織り出したからむし織の帯に、からむし織の白地細縞のきものを組み合わせて。秋田の銀線細工で跳えた、瓢箪をかたどった帯留で



自然素材で仕上げた小物

奥は経糸に麻、緯糸にしなを使ったA4サイズが入るバッグ。左はシャム柿の本体に、持ち手はレザーを使用。右は夏向きに、しな布で仕上げた数寄屋袋



自然色の帯に合わせる帯留

生成りなど自然な色合いが多い、しな布やからむしなどの帯には、帯留でひと工夫を。抑えた輝きの銀線細工や木素材の帯留で、クールな表情を演出

Profile

たなか・ようこ ●青森生まれ。東北の手技を広め、伝える品々を扱う「暮らしのクラフトゆずりは」は、今年で27年目。「作り手先を必ず訪れ、自分が納得してからお客様に紹介」することを基本に、国内外を訪問。5月24日(日)まで、東京・南青山「葛サロン」で展示会開催中



やさしく自然な手触りのものを組み合わせて
装うと、夏の暑さを忘れます

張りがあって風を通す生成り地のからむし織のきもの。細い縞を織り出したシンプルな柄がお好みです。草木染のしな糸を振り織りした、ざっくりとした風合いのなごや帯で。しな布素材のバッグは、さらりとした感触が夏に好適

からむし織、しな布など
自然素材を愛用

「夏は、きもの帯も、見た目はもちろんのこと、軽くて肌触りも快適な、からむし織やしな布の織物を愛用しています」という田中さん。盛夏の時期だけでなく、最近では思ったより蒸し暑い五月頃から着用し始めるそうです。「東北の布は糸にあり、と聞き、糸に注目して東北の手仕事を訪ねました。行く先々で自然の素材をみごとに使っている品々に、すっかり魅了されたのがこの仕事を始めたきっかけです」。なかでも品のあたる光沢と軽さ、着るほどに馴染む柔らかさが特徴の、からむし織に心引かれ、産地の福島県昭和村にも何度も足を運び、それまで見かけなかった、からむし織の帯をデザインからオーダーするように。糸そのものの色や、草木染でシンプルな色調に仕上げられた帯に、帯留などの小物でクールな印象にまとめるのが田中さん流です。「バッグやぞうりも、さらりとしたところが自然素材の魅力です」